
此岸花・彼岸花

弥招 栄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

此岸花・彼岸花

【Nコード】

N1463D

【作者名】

弥招 栄

【あらすじ】

あたしたちの前からカナがいなくなって、二年経った。彼女と付き合っていた雄介は、今あたしの家にいて、初めての朝を迎えようとしている。この作品は、お題小説企画「劇場」すばと『」からタイトルを借りて書いたものです。興味のある方は、下のリンクから、専用サイトへどうぞ。

（前書き）

この作品は、お題小説企画「劇場『すぽと』」に参加しています。「すぽと」で検索していただくと、関連作品を読むことが出来ます。

ではどうぞ、お楽しみくださいませ。

その日、雄介があたしの部屋で初めて一夜を明かした朝、彼がカーテンを開ける音であたしは目を覚ました。

もう二年近く開いたことのないそのカーテンの間から、まぶしい光が差し込む。その光が、彼の引き締まった、裸の上半身を照らし出す。

「だけど、あたしの心臓が大きくななないたのは、そのせいなんかじゃない。」

「やめて！ カーテンを閉じてよ」

「どうして？」

不思議そうな顔をして、彼が振り向いた。

「ああ、そうか。大丈夫だって。窓のそとは川じゃないか。裸を見られる心配は」

「そうじゃない……あ、あの、あたし庭いじりとか好きじゃないから、雑草だらけの庭をあなたに見られたくないの。だってみつともないじゃない」

あわててシーツを身体にまきつけながら、あたしはそう答えた。

あたしの部屋は、このマンションの一階にある。この階の各部屋には、小さな庭がついていて、他の部屋の住人は、家庭菜園をしたり、ガーデニングを楽しんだりしていた。

あたしもここに越してきた当初は、花を植えてみたりしたのだけれど、今は……

「そんなことないぜ。とてもきれいじゃないか」

そんなはずはない。いったい何が。

シーツを引きずりながら、あたしも窓際へ行く。雄介の腕が、肩をそっと抱えてくれる。

薄く汚れた窓の向こうに見えるのは、雲ひとつない秋空と、対岸のビルから半分顔を出した太陽。そして。

庭に咲く、赤く燃えるような、花の群れ。

「やだ、これって」

「なんだよ。自分の庭なのに知らなかったのか」

笑い交じりの彼の声が、耳をくすぐる。

「彼岸花って陰気なイメージがあって好きじゃなかったけど、こうやって見るときれいだな」

あたしはさらに不安になって、彼の顔を見上げた。彼はあたしを振り返りもせずに、すこし淋しげな表情で花を見ていた。

「カナもさ、この花が好きだって言ってた。正直変なやつだと思っ
てたけど、やつと分かったよ。本当に、きれいだ」

「やめてよ」

あたしは乱暴にカーテンを閉めた。部屋の中が再び薄闇に包まれる。

「あんなやつのことなんか。何も言わずにあなたを捨てて消えてしまったカナのことなんか、いまさら言わないで」

やつと、彼があたしを見てくれた。優しいまなざし。それを手に入れるまで、二年かかった。

「お前は、カナと親友だったじゃないか。なのにどうして」

「親友だから赦せないのよ！ あなたを、あなたを……悲しませるなんて」

あなたをあたしから奪うなんて！

あたしは胸元でつかんでいたシーツを離した。あたしを見つめる彼の瞳が、すこし、開いた。

「ねえ、あんな気味の悪い花じゃなくて、あたしを見てよ。あたしはあなたのためにきれいになる。あたしはあなたのために咲く。だから、あんな花なんか、見ないで」

「……そうだ、な。うん。お前は、とてもきれいだよ。あんな花なんかよりもよっぽど」

雄介はそう言って、あたしを抱きしめた。お互いの肌の温度が交じり合うのを待って、そしてキスをした。

そうよ。あいつのことなんか忘れて。死んだ花じゃなく、生きているあたしを見て。

閉じたカーテンの外では、彼岸花が揺れている。この人が帰ったら、全部焼き払ってやる。

彼岸花。死人花。この人はあたしのもの。

お前はあいつの死体を抱いて、せいぜい咲いているがいいわ。

(f i n)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1463d/>

此岸花・彼岸花

2010年10月15日23時26分発行